

■福岡/宮若市の実施報告

「金融経済教育公開授業 in 福岡（宮若市）（宮田北小学校）」（10月3日開催）

宮田北小学校は、児童数 176 名（特別支援学級を含む 8 学級）の学校です。「自他を大切にでき、自律的に行動し、多様な他者と共に伸びる児童の育成」という教育目標のもと、「自ら考え学ぶ児童」をめざす姿として掲げ、主体的に学び、社会とつながりながら思考を深める力の育成に取り組んできました。とくに今年度は「お金やものの価値を知り、社会とのかかわりを深める児童の育成」を研究主題にし、児童が身の回りの生活や社会の仕組みに目を向け、「なぜそうなるのか」「どうすればよいのか」と問いをもちながら考えを深められるよう、題材や学習活動を工夫してきました。

10月3日（金）に金融経済教育公開授業を開催し、1年生・3年生・6年生・なかよし学級を対象に公開授業と、塚本俊太郎氏による講演会を行いました。

▼ 参加者内訳：

本校教員 16 名、教育委員会 16 名、他校教員 22 名、その他 2 名

合計 56 名

1. 公開授業

(1) ぼくのしごと

勤労収入を通して社会に主体的にかかわる素地を養うため、家族という身近な人から、みんなのために働くことの意義を理解し、集団の一員として自分の役割を積極的に果たそうとする態度の育成を目指しました。

授業の中では、初めは母親と一緒にしかお風呂掃除ができなかった主人公が、最後は自分だけで仕事をできるようになったことを踏まえ、初めの場面と比較した主人公の気持ちの違いや周りの家族の心情を考えさせ、働くことで自己の成長を実感できることや他者の役に立つことができることに気付くことができました。

(2) 農家の仕事

宮若市は自然豊かで、農作物を育てやすい環境であることや、土地を様々な野菜やコメなどを育てるための畑や田に利用していることを学習し、生産の仕事は地域の人々の生活と密接なかわりを持っていることを理解するようにしました。また、直売所、スーパーマーケット、無人販売の販売方法の違いについて、値段や新鮮さ、便利さ、品揃えなどの観点を意識するようにしました。

店が消費者に喜んでもらうために、商品の品質や値段の付け方などを工夫して販売していることに気付くとともに、消費者として購入する場所を選ぶことも意識できるようになりました。

(3) こんだてを工夫して

献立作成時に、栄養のバランスだけではなく、値段にも着目して食材を選ぶ必要性を気付かせるとともに、チラシを基に金額を計算する活動も行い、目的に合った買い物の仕方について考えることを目指しました。

献立作成時に食材の値段に注目し、予算や購入の時期、必要な物を必要な分だけ買うことやまとめて買うことなど、栄養バランスを考えながら、限られた予算で工夫して買い物をすることの大切さを学習できました。

(4) パーティーを開こう

野菜の栽培・販売を通じて、働くことやその対価としての利益を得ることの喜びを味わう授業の中では、売上を増やすために客に気持ちよく購入してもらえる工夫を試行錯誤したり、正確にお金を授受する体験的な活動を行ったりするようにしました。

商品の販売活動や買い物の体験的な活動を通じて、店側として売上を伸ばすための接客の工夫や、客側からみてより良いと思われる店側の工夫を考えられるようになりました。

2. 研究発表

本校の教育目標である「自他を大切にでき、自律的に行動し、多様な他者と共に伸びる児童の育成」を具現化できるよう、金融の視点を活かす題材や作業体験的な活動を織り込むなどの指導の工夫を行いました。そして、児童がお金について関心を持ち、正しく理解し、自分の生活をより良くしようとするプロセスを通じて「お金やものの価値を知り、社会とのかかわりを深める」児童を育成することを目指しました。

3. プログラム

14:05～14:50 公開授業
「ぼくのしごと」(1年生 道徳科)
「農家の仕事」(3年生 社会科)
「こんだてを工夫して」(6年生 家庭科)
「パーティーを開こう」(なかよし学級 生活単元学習)

15:05～15:40 開会行事・研究発表
学校長挨拶：宮若市立宮田北小学校 校長 花村 幸次郎
来賓挨拶：宮若市教育委員会 教育長 塩川 英治
福岡県教育庁北九州教育事務所 所長 末富 寿典
研究構想：宮若市立宮田北小学校 研究主任 平田 宥奈
指導・助言：福岡県教育庁北九州教育事務所 指導主事 光城 理恵

15:40～16:40 講演
演題「子どもに伝えたいお金の話」
講師：塚本 俊太郎 氏

16:40～16:45 閉会行事
主催者あいさつ：福岡県金融広報委員会 事務局長 内田 清博

以上